

鈴木恵美「十一の心」(部分) (2020) 再生紙、ソイワックス、土 / 1070 X 1250mm



— 7人のアーティストによる平面表現の魅力 —

大八木夏生
國久真有
鈴木恵美
住吉明子
牧田愛
本山ゆかり
薬師川千晴

fの冒険

2020
12/19 sat — 2/7 sun

A-Lab
あまらぶ アートラボ

fの冒険

～7人のアーティストによる平面表現の魅力～

2020 12/19 sat — 2021 2/7 sun

入場料無料 (火曜日・12月30日、31日休館)

1月1日～3日も開館しています

月・水～金 午前11時～午後7時
土・日・祝日 午前10時～午後6時

主催 尼崎市

協力 Baycom、TEZUKAYAMA GALLERY、

The Third Gallery Aya、Yutaka Kikutake Gallery

「fの冒険 ～7人のアーティストによる平面表現の魅力～」展を開催します。本展は平面というフィールドで、現在の新しい表現を発表し続けている若手作家に焦点をあてたグループ展です。子どもの頃から多くの方が体験している「絵を描く」こと。最も基本的な美術表現のひとつといえるかもしれません。今回紹介する7人の作家はテーマも技法も素材も様々な方法で描いています。描くこととはなにか、表現することとはなにかということを“絵画”という概念にとどまらないものとして楽しんでいただければと思っています。「fの冒険」の「f」に、flatな媒体を通じた、figure、freedom、fine、find、feel、fact、fun、future、fantasy、friendlyなど様々なfの要素を発見し、平面の多彩な表現を感じてください。

会期中のイベント

アーティスト・トーク

2021年1月16日(土) 午後3時～5時、伊丹市立美術館の学芸員 藤巻和恵さんをゲストに迎え、出展作家とのトークイベントを開催します。定員15人。申込必要。詳しくはA-Labのホームページ、フェイスブックなどでお知らせします。

ライブ・ドローイング

会期中、國久真有さんが会場でライブ・ドローイングを行います。日程はA-Labのホームページ、フェイスブックなどでお知らせします。

あまらぶアートラボ A-Lab

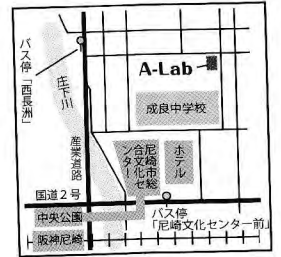
(尼崎市西長洲町2-33-1)

会場には一般用駐車場はありません

問い合わせ先

市役所文化振興担当 ☎ 06-6489-6385

A-Lab ☎/FAX 06-7163-7108



大八木夏生
Oyajii Natsumi

道端にある「何だ、これ」を写真に収め、それらをモチーフに絵を描いている。写真を通してどこで現れたのか、どこかがあるように、それらをシルクスクリーンなどの高次の方法で形作っていることで新たな面白さがあるものがある。『格子模様の押入』The Third Gallery Aya / 大阪 / 『水色の影絵』神岡アートビレッジセンター / 兵庫 / 『VOCA展 現代美術の展望』新しい平面の作家たち / 『上野の森美術館』東京(2020)



《格子模様の押入》(2020)



國久真有
Kunihisa Mayu

人体を軸にし腕のストロークと遠心力を利用して呼吸に似ている描く手法を利用した Wit-witシリーズの絵画を制作している。【受賞】岡本太郎現代芸術賞特別賞(2010) 現代芸術国際展(2017) 【展覧会】『RAW SUBSTRATUM』神戸北野美術館 / 兵庫(2020)、『下町芸術祭』兵庫、『六甲ミーツ・アート』兵庫、『LIGHT LESSON』GALLERY CLEF / 岐阜、『BEAT PER MINUTE』TEZUKAYAMA GALLERY / 大阪(2020)

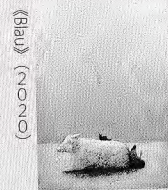


《WIT-WIT RED》(2018)



鈴木恵美
Suzuki Emi

手漉きの楮紙(タイ産マルベリー紙)にアクリル絵具を何度も重ね、削りや剥がしを繰り返して、独特な質感の作品を制作。最近ではアクリル画以外に、再生紙、ソイワックス、土を使って環境保全や動物愛護をテーマにしたカードやミニナールな作品制作を試みている。【展覧会】『+』Gallery noir / NOKITA / 静岡、『Lunam Hortus』Gallery Laura / 愛知、『retrain』Gallery haruji / 千葉、『Mythology』USETTE 鎌倉店 / 神奈川店 / 神奈川・東京(2020)



《Blaue》(2020)



住吉明子
Sumiyoshi Akiko

すでに知っているもの、それによく似た知らないもの。動物のようであり植物のようでありまたく知らないもの。愛らしい顔の動物たちが暮らす森の情景を、メティウムや表現方法の違いはあっても買しても不思議に優し世界観で、絵画から立体インスタレーションなど多岐にわたって制作を行う。【受賞】art to art賞カンパブリ(2008) 【展覧会】『水平線と折余曲折(再)』TEZUKAYAMA GALLERY / 大阪(2020)、『瀬日本橋三越美術館』日本橋三越本店 / 東京(2017)



《天気の良い日 Sunny Day》(2017)



牧田愛
Makita Ai

金属やプラスチックなどの無機的なモチーフで有機的なイメージを創造し、人工と自然、二次元と三次元の境界を、緻密な絵画技法で表現している。2017年の「ヨーロッパでの展覧会」以来、東京とニューヨークを活動の拠点に、国内外で精力的に展示発表をしていく。【受賞】ポーラ美術振興財団海外派遣助成(2017)、岡本太郎現代芸術賞、千葉市芸術文化新人賞(2015) 【展覧会】『Artifact』日本橋三越本店 / 東京、『無明と可視』ポーラミュージアムアパネックス / 東京(2018)



《Artifact [Artificial brain]》6点シリーズ(2020)



本山ゆかり
Motoyama Yukari

絵画を構成している要素を分解しながら、絵画をつくる鑑賞するときに起きる出来事をつぶさに見つめる作業をしている。それぞれの要素・出来事に向き合うための仕組みやルールを整え、制作を行う。【展覧会】『その出入り口(穴や崖)』Yutaka Kikutake Gallery / 東京、『称号のはなし』FINCH ARTS / 京都(2019)、『この現実のむこうに Here and beyond』国際芸術センター青森 / 裏声で歌へ / 小山市立車屋美術館 / 栃木(2017)

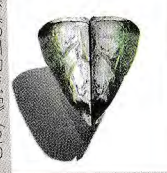


《大い石》(2020)



薬師川千晴
Yakuhiwa Chiharu

紙に1つの点を描いてみる。そしてその隣にまた1つの点を描く。また1つの点には色の濃さや大きさの差異が生まれ、同時に1つの点の間にある空間は、お互いの距離となる。私はこの、点と点、個と個、あちらこちらから成る、対の関係性に魅力を感じて制作している。【受賞】滋賀県次世代文化賞(2019) 【展覧会】『RAW KOMP』川崎空間、そこにある音 / 海岸通りギャラリーCASO / 大阪、『retrace a pair』対をなす者 / Gallery PARC / 京都(2019)



《絵具の引力 #5》(2015) 画像提供: Gallery PARC / 撮影: 安生田匠希